

1. SBT（Science Based Targets）とは

SBT（Science Based Targets）は、企業が地球温暖化を1.5°C以内に抑えるために設定する温室効果ガス削減目標です。パリ協定の目標と整合し、気候変動の影響を最小限に抑えるために必要な削減水準を満たす目標として、国際的に認められています。

SBTは以下の3つのスコープで温室効果ガス排出量を分類します：

- **Scope1**：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）
- **Scope2**：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
- **Scope3**：Scope1、Scope2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

2. 当社の温室効果ガス排出量現状

2.1 排出量推移（2022年～2024年）

年度	Scope1排出量 (t-CO ₂)	Scope2排出量 (t-CO ₂)	合計排出量 (t-CO ₂)
2022年	10.54	2.30	12.83
2023年	12.35	4.06	16.40
2024年	19.00	4.82	23.82

事業拡大に伴い、2022年から2024年にかけて排出量は増加傾向にありますが、今後は体系的な削減施策により、持続可能な成長を実現してまいります。

3. 42%削減目標の設定

3.1 目標設定の根拠

パリ協定における地球温暖化1.5°C以内の目標達成には、年平均4.2%以上の削減が必要とされています。当社では、2024年を基準年として、2030年までに42%の削減を目標に設定いたします。

削減目標
2024年基準年：23.82 t-CO ₂
2030年目標値：13.8 t-CO ₂
削減率：42.0%

3.2 削減計画

年平均4.2%の削減率を維持し、着実に目標達成を目指します。主要な排出源であるガソリン使用（約78%）と電力使用（約20%）を重点的に削減対象とします。

4. 削減に向けた取り組み方針

4.1 完了済みの取り組み

- 社内照明のLED化完了（2024年実施）
- 社有車へのハイブリッド車導入開始（2022年～）
- 勤怠管理システムのデジタル化による書類削減

4.2 今後の重点取り組み

- 社有車の更なるハイブリッド化・電動化推進
- 高効率空調設備への段階的更新
- リモートワークの推進による移動の削減
- ペーパーレス化の徹底推進
- 再生可能エネルギーの活用検討
- 省エネ設備の積極的導入

4.3 削減施策の効果測定

各施策の実施効果を定期的に測定し、目標達成に向けた進捗管理を行います。四半期ごとの排出量データを収集・分析し、必要に応じて追加施策を検討いたします。

5. 継続的な改善と報告体制

5.1 社内体制の構築

SBT目標達成に向け、全社的な取り組み体制を構築いたします。各部門における省エネ活動を推進し、社員一人ひとりの環境意識向上を図ります。

5.2 報告・開示

削減目標の進捗状況を定期的に公開し、透明性の高い情報開示を行います。ホームページ上での情報公開により、ステークホルダーの皆様への説明責任を果たしてまいります。

5.3 継続的改善

技術革新や事業環境の変化に応じて、削減施策の見直しや新たな取り組みの導入を検討いたします。目標達成後も、更なる削減に向けた取り組みを継続してまいります。

6. まとめ

紀州電工株式会社は、客観的データに基づいた削減目標を設定し、2030年までにエネルギー使用量42%削減を目指します。電気設備工事を主力事業とする当社の専門性を活かし、省エネ設備の導入や効率的な業務運営により、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

全社員一丸となって取り組むことで、環境負荷の低減と事業成長の両立を実現し、お客様や地域社会に信頼される企業として、更なる発展を目指してまいります。